

支援部だより

堺市立上神谷支援学校

支援部だより No. 2

2025. 11. 14 発行

今回は、外部専門家派遣事業を通していただいた具体的な支援のアドバイスについてご紹介します。
事例は、小学部低学年の児童を対象としたものです。今後の支援や指導の参考として、ぜひご活用ください。

作業療法士（OT）への相談内容

- ①身体に刺激を入れる行動が頻繁に見られる。
(骨や関節を固いところに打ち付ける、指で物をはじく)
- ②遊びが広がりにくい。(一人遊びができない、大人におんぶをしてもらいたがる)
- ③感覚の過敏さがある。(特定のコップ以外で水分を摂れるようになってほしい、
苦手な食材を食べられるようになってほしい)



作業療法士（OT）からのアドバイス

🧠 感覚刺激への支援

●課題

手の関節が非常に柔らかく、過度に曲がってしまう傾向があります。座る際には割座や正座をし、手を足の下に入れて感覚刺激を求める様子が見られました。これは、全体的な感覚の鈍さが原因と考えられます。

●アドバイス

- ・指に感覚を求めている場合は、大人が指を軽く反らせて刺激を与えると効果的です（握るよりも有効）。
- ・腕の関節に刺激を求める傾向があるため、紅白玉やお手玉など、安全に刺激を得られる道具を活用しましょう。



🦊 遊びの広がりを促す支援

●課題

興味のある遊びに限られており、大人に「おんぶ」を求めることで安心感を得ようとする様子が見られました。その他の遊びにはなかなか関心を示しません。

●アドバイス

- ・滑り台やトランポリンなどの「感覚遊び」を取り入れましょう。
- ・じゃばらトンネルやノバパックの山など、体幹を鍛える遊びも効果的です。姿勢保持が難しい場合は、四つ這いの姿勢を促すと安定しやすくなります。
- ・「おんぶしてほしい」という気持ちを伝える練習として、対象の大人を見つけたら「お願い」と伝えてからおんぶする経験を積みましょう。身振りで気持ちを表現する力が育まれます。



水分摂取・食事への支援

●課題

コップや金属製スプーンに対して口唇の感覚過敏があり、水分は中身が見えないマグでのみの摂取です。舌の動きも少なく、飲み込みが苦手です。

●アドバイス

- ・本人が安心して飲める方法を見つけることが大切です。
- ・金属製スプーンが苦手な場合は、木製スプーンを試してみましょう。素材や温度の違いにも配慮しながら、冷たさや硬さを調整してみてください。
- ・頬を軽く引っ張るトレーニングで口の動きを促しましょう。
- ・家庭では、麺類や葛きりなど飲み込みやすい食材を取り入れると効果的です。



実践例と成果

●感覚・体幹遊びの実践

- ・ホールの山登りでは、怖がっていた前のめり姿勢も、四つ這いの姿勢を促すことで徐々にバランスを取りながら登れるようになった。大人が山の上から「おいで」と呼ぶと、一人で山を登れるようになった。
- ・中庭では、大人の声かけにより三輪車や滑り台に挑戦できるようになった。
- ・「おんぶしてほしい」とときには、2枚のカードから「おんぶ」のカードを選び、指さして気持ちを伝えることができた。
- ・おんぶをする前に、10回トランポリンを跳ぶように促すことで、跳ぶ、揺れるなどの全身運動にも取り組めるようになった。

●感覚遊びや体幹遊びの成果

- ・身体の使い方や力加減を学び、筋肉や関節への刺激によって、姿勢保持やバランス感覚が育まれ、動きが安定してきた。
- ・遊びの幅が広がり、自分の気持ちを伝える力も育まれた。



●水分・食事への取り組み

- ・野菜などの苦手な食材は、口に入れる量を少なくすることで、吐き出さずに飲み込めるようになった。
- ・好きな食材と苦手な白ごはんを混ぜることで、食べられるようになった。
- ・ストローマグを使って水分摂取の練習を行い、3回飲むことができるようになった。
- ・頬のトレーニングでは、顔を触られることにも抵抗なく取り組むことができた。

●水分・食事への取り組みの成果

- ・頬のトレーニングを行うことで口周りの感覚が整った。
- ・食材を混ぜたり食べる量を調節したりすることで、食べられる食材が増えてきた。

